

# 八潮街並みづくり100年運動の取り組み

市民の皆さんと50年、100年後を見据えて、「八潮らしい魅力ある街並み」を目指すため、八潮街並みづくり100年運動を展開しています。八潮街並みづくり100年運動実行委員会では、建築系の5大学と連携し、今年度は本市の顔となる駅前公園のデザインや、筑波大学との連携による、まちの魅力を再発見するためのプロジェクトを実施しました。

「まちづくり資源活用プロジェクト」では筑波大学との連携により、次のような事業を行い新たに3つのプロジェクトが提案されました。

## ステップ1 知る

### 「八潮を知るワークショップ」を開催

学生が中心となり、公募した市民の皆さんや、八潮市商工会青年部の方々と、市内の環境や文化、商品、サービスなどについて、意



ワークショップ風景

見交換を行いました。

## ステップ2 調べる・探す

### 「パブリック・ピクニック」を開催

市内の魅力を再発見するため、「まち歩き」を行いました。気に入った空間があれば、手持ちのイスを置いて座ってみました。参加者からは、「今まで何となく見過ごしていた街角も、落ちついて見ると、結構楽



中川を眺める

### 「やしお市民まつりワークショップ」を開催

やしお市民まつりで、市民が思う「八潮の資源」を知るために、アロハシャツのデザインワークショップを行いました。アロハシャツをかたどった紙に、八潮の資源をたくさん描いていただきました（市ホームページの100年運動で掲載中）。



やしお市民まつりでの風景

## ステップ3 新たなプロジェクトを提案

### 八潮アロハ

ハワイの代名詞ともいえるアロハシャツには、海、ヤシの木、パイナップルなどの名産（地域の資源）が描かれ、着るだけでPRにつながっています。

八潮をPRする方法の一つとして、八潮の資源をモチーフにしたアロハシャツを作り、着ることで、八潮らしさを市内外へ発信します。



枝豆アロハ

### やしおの「しょくにん」インタビュー

八潮市には、小松菜や枝豆などの農産物があります。

そこで、「食」に関わる人（しょくにん）にインタビューを行い、取材記事や、小松菜の豆知識、料理のレシピなどを掲載したパンフレットを作成します。

つなぎ、これらの情報を市民の皆さんに積極的に発信します。

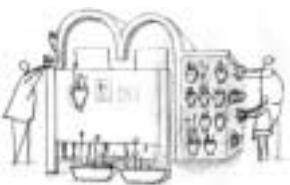


取材風景

### トイレナール

パブリック・ピクニックなどの調査から、市内には多くの公園があり、そこに設置されているトイレがたくさんの方々に利用されている事が分かりました。しかし、なぜか簡素で冷たい雰囲気であり、また、夜間は防犯上の問題も問われています。

このトイレに着目し、外装をデザインすることにより、市民の皆さんが、トイレに愛着を持つことにより、トイレを大切に使うと思うのと同時に、トイレが、つなぎ、新たなコミュニティを提案します。

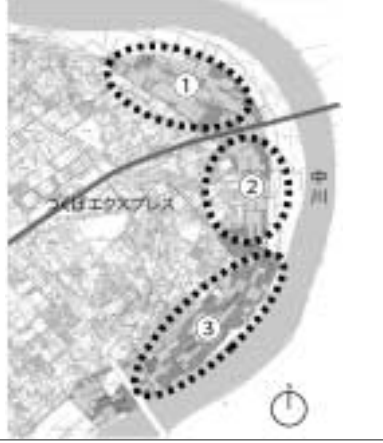


# 中川周辺地区の景観の調査を行いました

中川周辺地区（南川崎、木曽根地域などにおける新堤防と旧堤防に挟まれた区域）に残されている、今も懐かしい「農地の風景」を守り育てていくために、今年度、東京農業大学と連携し景観調査を実施しました。

## 景観の特徴

調査の結果、このような景観特徴が分かりました



### ①の区域

ビニールハウスが点在する農地としての風景

### ②の区域

新堤防の上から見ると短冊形の農地が広がる風景

### ③の区域

短冊形の耕作地他に家庭菜園的利用の農地がある。また、資材置き場が点在している風景。



## 土地所有者の意見

この地域に土地を所有されている皆さんにアンケート調査を実施しました。

### 主な意見

・今後も農地として利用していきたいが、後継者の問題がある。

・景観を悪くしているものは、放置されたゴミ、資材置場、耕作されない農地である。

・将来は、四季の変化を感じられ静かな自然が残る風景であって欲しい。また、広場や公園などがあるとよい。

・この景観を残していくためには、営農者や市民と行政の協働の取り組みが必要と考える。

このほかにも一定の土地利用のルールづくりが必要との声や、景観作物の植栽に関して意欲を持っている方の意見が多くありました。

## 今回の景観調査から

東京農業大学

准教授 荒井坂さん



「今回調査したことは、都心から近いのに農地が今もこれだけまとまって残る地域は、珍しいと思いました。これから農地を保全していくためには、「農地所有」から「農地利用」をしていく必要があります。この大切な農地を、みんなで守っていく事が将来の八潮市にとって大きな財産につながっていくと考えます。」

中川の新堤防や旧堤防（中川遊歩道）では、ウォーキングやランニングをする光景が見られます。また、毎日通勤でつくばエクスプレスを利用している方は電車が中川を渡る時に、車窓から見える「中川」や「農地」、「フラワーパーク」の眺めを楽しんでいるようです。

市では地権者の皆さんをはじめ、市民の皆さんと協力し、この景観の保全に向けて何が出来るかを、今後も研究していきます。